

歴史的な視野から見た中央アジアの 経済発展に関する今後の課題について（ノート）

賀 来 公 寛*

中央アジア、特にウズベキスタン、カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、の諸国における今後の経済発展の方向については、経済発展史の観点から見ると、特異な点がいくつか指摘される。第一には、旧ソ連邦の“周辺国”としての歴史的な位置づけであり、第二には、旧社会主義国として、今日の発展途上国との比較において、社会的な“平等”が達成された社会が今後どのようなかたちで、市場主義経済に移行して行くかという点である。

今日の開発経済学、及び経済発展史の視点から、経済発展に関する議論を整理すると、次のような分類が出来ると思われる。

- (1) 経済発展を「先発国」(early starter) と「後発国」(late comer) に分類し、後発国に見られる顕著な傾向、例えば、政府が積極的に基幹産業、銀行制度等の育成に介入することに重点を置いた見方があることがあげられる。こうした見方は、従来の新古典派的な考え方及びマルクス主義的な従属論とは違った方法論の可能性を示唆していると考えられる^(註1)。
- (2) 経済発展を近代化のプロセスと考え、経済発展と同時並行的あるいはむしろ経済発展に先行して個人の能力、基本的人権の回復を考える立場である。この考え方によれば、従来の経済発展のプロセスは全体の“パイ”の大きさに重点を置いた結果、個人個人の権利や能力はむしろ縮小されてきたと云う結論になる^(註2)。

以上のような分類を視点に入れて、中央アジアを見ると極めて興味深い要素が含まれていると考えられる。その第一点は、中央アジア諸国は工業化に関して見れば、「後発国」(late comer)であること、しかし今日の発展途上国から見れば、鉄道、道路、住宅などの社会基盤は基本的には既に整備されていることがあげられる。但し鉄道などを見ると、社会主義体制のもとで、モスクワを中心とした路線網になっており、西側との物流を促進出来るような状態にはなっていない^(註3)。この事は後発国としての、工業化の“初期条件”が所謂発展途上国とは基本的に異なっていることを示している。

第二点目は、社会主義制度のもとで達成され、国民の間に広く浸透してきた社会的「平等」の概念が、市場経済システムの導入により崩壊してきたことがあげられる。この点は今後の中央アジア経済さらには民主化、近代化を考える上で重要な論点を含んでいると考えられる。西ヨーロッパを中心に見られた経済発展は「個人」の権利、と自由を追求した結果であり、そのプロセスにおいて、

*東洋大学国際地域学部；Faculty of Regional Development Studies, Toyo University

「市民社会」が社会の中核として形成され、経済発展と社会に近代化に寄与したと考えられている^(註4)。今後中央アジア諸国が、西側の経済発展のプロセスで見られたような、個人の権利を基盤とした市民社会の形成に今後進んでいくのか、あるいは、中央集権的なトップダウンの体制に移行していくのか(この傾向は既に見られる)^(註5)、あるいは別の方向に進展していくのかと云う課題は、今後の中央アジアにおける経済発展、近代化、民主化(西側で見られる意味での民主化)を考える上で基本的な問題点であるといえることができる。

更に、最近の調査によれば、中央アジア諸国及びロシアにおいては、大規模産業で収益性の高い企業は資源・エネルギー関連に特定されており、製造業に対する投資は極めて低く、市場で収益性の高い企業は資本の回転率の高い流通業に限定されているという報告もある^(註6)。この点は、中央アジアを後発国(late comer)と考えると、前述したような今後の政府による工業化への介入の可能性と外国からの生産技術の導入といった側面で大きな課題を抱えていると考えられる。

以上述べた諸点を考えると、今後の中央アジア経済発展に係わる研究課題として、次のような点が考えられよう。

- (1) 共同体的な慣習経済から利益中心の採算社会への移行の問題
- (2) 国営企業の民営化に伴うコーポレート・ガバナンスに係わる問題点
- (3) 中小企業支援に関する銀行制度の役割

(注1) このような“後発効果”(late development effect)を指摘した著者としては下記があげられる：

Habakkuk, H.J., *American and British Technology in the Nineteenth Century: The Search for labor-Saving Inventions*, Cambridge Univ. Press 1962; Dore, Ronald, *British Factory-Japanese Factory; The origins of national diversity in industrial relations*, George Allen & Unwin, London, 1973; Gerschenkron A. *Economic Backwardness in Historical Perspective*, Cambridge, Massachusetts, 1962.

(注2) 個人の能力(capability)を重視したのはアマルテア・センである。この点についての議論は、「開発と援助」絵所秀紀著、同文館、第二部の三、アマルテア・センの問題提起、において詳しく議論されている。

(注3) *Operation Performance Evaluation Review of Railway Sector Survey & Roads and Road Transport Sector Survey for Russia, Ukraine, Belarus and Kazakhstan*, European Bank for Reconstruction and Development (EBRD), February 1994.

(注4) この点についての議論は下記の著書において詳しく議論されている。

Barrington Moore Jr., *Social Origins of Dictatorship and Democracy; Lord and Peasant in the making of the Modern World*, Penguin University Books, 1973.

(注5) 中央アジア経済、市場移行国の背景と課題、北村歳治著、東洋経済新報社、1999年、30ページ。

(注6) これらの点については下記のレポートに詳しい。

Operation Performance Evaluation Review of Uzbekistan National Bank, Financial Facility for SME Development, EBRD, June 1997; *Mid-Term Review Report of SME Credit Line Project in Kyrgyzstan*, EBRD, May 1997; *Progress Review Report of Russia Small Business Fund-Full-Scale Operation Revolving Facility Credit Line in Russian Federation*, EBRD, July 1997.

Some Notes on Issues of the economic development of Central Asian countries in historical perspective

Kimihiro KAKU

キーワード：経済開発における先発国（early starter）と後発国（late comer）

要旨：

中央アジア諸国は、経済発展史のなかで、特異な地位を示している。それは第一に、現在の発展途上国と違い、社会基盤整備が既にある程度整備されていることであり。第二に所得の平等化が社会主義体制のもとで確立されてきた点である。このような点を考えると、中央アジア諸国の今後の経済発展を分析する上で、新しい視座が必要になると考えられる。